



(白) 石 菅規模は簡単に大きくならないという点に問題がある。そこ

ていますが、経営規模は簡単に大きくならないという点に問題がある。そこで当然、干拓を作ったり、草地改色などをやりますがやはり簡単には経営規模は拡大されない。組織化された生産体制の確立が一番大きな問題ではないかと思

います。——ズバリ申しまして昨年が三六万九、〇〇〇トですが、ことは第二年度に入

中小企業の基盤整備を

——そうですか、ところで話も少し専門的になってきたようですから、こころで話をもちかえまして企画部長さんいかがでしょうか。ことはどういふものが新しい課題になるでしょうか。

村田 私は企画部の仕事をやるようになってから感じますのは、熊本県の人口を産業別に分類してみると、産業別に就業している人口の一番多いところからやはり手をつけていくべきだという感じがします。ということになりますと一番多いのが何といっても農業です。その次が中小企業なんです。だから熊本県としては農業と中小企業はもっと力を入れなければならぬということ。これは県政の方向ではないかと思うのです。

——どれ位を目標に……。白石 そのトン数はまだこれから考えたかと思ひますが、さらに反当の四七〇〇という生産をさらに向上させていかねばならないのではないかと思います。

——一般の県民の方々から見えますと、なるほど熊本では昨年は米が史上空前だといつてますけど、どうしても米つくり日本一は佐賀に持っていかれてるということ、どうにかしても佐賀県に追いつかないだろうかという気がするので、可能性は、いかがでしょうか。

ただ、農業にしろ、中小企業の問題にしろ、私はこの間、経済懇談会の幹事会でいろいろなお話を聞いたのですが、例えば中小企業問題にしろ、やはり熊本県で一番足りないものは中小企業の基盤整備なんです。農業にしてもそうじゃないかと思うのです。

——全く新しい分け方だと思ふのですね。例えば就業人口別に見て県政の方向を分けたということですね。それから農業面の育成の方向、例えていいますと、従来は割合に方向ができていますね。ところで中小企業の基盤整備という新しい言葉がでてきたんですが……。村田 この間の経済開発懇談会の中で、幹事さん方が口を揃えておっしゃること



(村田) は、やはり道路が……。最近特に頭者になったこと

は、農業問題をもっと考えるべきだといふご意見が強いということ。これは新しい方向だと私は思うのです。そういった面をもっと掘り下げて考えていくべきではないかということですね。

河端 その農業というのは、消費購買力を殖やすという意味ですか？村田 そういふこともあると思ひます、もう一つは、なぜ商工業界の方が農業の問題をとり上げてやかましくおっしゃるかといえ、今や大企業、中小企業を問

わす、やはり非常に国際化されてきているということですね。貿易が自由化されるという段階でね。そういう点から農業の問題をとらえる。

県外勢力に耐えうる 体質の改善を

——さき程から部長さんのお話を聞いていますと、従来いわれていました中小企業育成対策というものはなく、たまたま人口別に就業構造を見ても、熊本県は農業と中小企業に従事している人が大半であるということ、この対策をやらなければいかんということ、そうしますと今おっしゃっている意見は、中小企業者としての意見ではなくて、たまたま熊本県の工業や商業関係者といった方々が、中小の部に属するということだけで、だから工業者としての、商業者としての意見が、農業も考えなくてはいけない道路もつくって欲しいというような気がするんですが……。村田 早い話がですよ、高速自動車道路の問題にしても、一番この高速自動車道路の早期完成を希望しているのは誰かというところ、商工業者なんです。そこで、熊本の商工業者の九九〇〇位は、いわゆる中小企業なんです。大企業というのは勿論ないんですよ。しかもその中で一〇人位までの雇用者を持つている企業が大部分なんです。だから、やはり中小企業者育成ということでは基盤整備を忘れて



(河端) 業者のためにならぬという一面に違ふ面もあるわけですね。非常に体質が弱い

はならないということですね。——なるほどですね。ところで商工業産部長さんいかがですか、只今の企画部長さんの二つの分類の仕方方向が出たわけですが……。河端 ただね、高速道路が非常に中小企業者のためにならぬという一面に違ふ面もあるわけですね。非常に体質が弱いと、県外からの資本がどんどん入ってくる、或は商品が入ってくる、いろいろそういう面がありますからね、その面だけを余り強調して、本当の意味の体質改善を注意して平行して進めていかないと非常に問題があるように思ひます。体質を充分つけておいて、その上で県外の資本と県外の物資とも充分対抗し得る体質をもった上で、という前提がなければ非常に危険性があるわけですね。

村田 この間ね、やはりそういう話が出ましたよ。その点については商工業産部長がおっしゃる様に、熊本の中小企業者の方には、非常に心配をしており、そこをどうかという心配をしていたのでは、ダメだという意見は皆さんの間で強い。やはりこの際は、その壁を打ち破らねばならない。その打ち破るという勇氣を中小企業が持つということは非常に前進だと思ふわけですね。

河端 だから、言い方を変えればね、県

外と対抗しなければならぬという自覚の上に立つて、これを一つの契機にして今までの安易な考え方をかえていく、そして体質改善に結びつけていくという努力が互いに結びつかねばならぬと思ひますね。

——そうしますと、いわゆる中小企業者自体が体質改善をはかっていくという動きは、もう昨年あたりからどんどん出ていますね。共同仕入れ機構が業者の間で一本化した、あれも大きなニュースだと思ひますが、その他、鉄工団地の問題とか、中小企業対策というのは大いに力を入れていかねばならぬわけですね。

工業の団地化と 協業化を軌道に……

河端 工業と商業に分けて考えて見ますと、商業で一番ことし大きな動きになるだろうと思うのは、卸団地の問題が非常に具体化してくるだろうということですね。昨年、これは暗いニュースの一つだったわけですが、有明製鉄があいいう状態になってしまった、それで熊本市の本山工場の跡地をどう処分するかという点で、あそこトラックターミナルつくりこれを中心にして卸業者の人たちも集合しようではないかということ、これは私はことしの大きな課題だと思ひます。というのは、熊本市は一面では従来まで卸業を中心に発展してきた街なんです、それが非常に遅れてしまつて、

交通はマヒするし、九州卸の中心としての機能がマヒしてしまつて、こういつた状態から脱却する年だと思つておられます。それで、卸団地あたりを中心にして、今までの活気を取り戻すという一つのいいチャンスではないかと思つておられます。

それから、工業関係では、鉄工団地が、一昨年頃から非常に整備されてきて、健軍の飛行場の北側に、着々偉容を呈してきつたわけですが、これがいいよ完成いたします。こういう形で、やはりさきほどの企画部長のお話のように、団結する力をここで打ちたてるといふことですね。今後は食品関係であるとか、或は木材、木製品関係も団地化、協業化に進まねばならぬと思つております。ことしはそういうことが軌道に乗ることを期待しているわけなんです。

——工業の話が出ましたが、昨年で七〇社、県内企業が進出してきましたね。しかし何と申ししても、昨年の一番暮れにナショナルとか、三菱電機の進出が決定しましたが、こういつた新産の名にふさわしい工場がことしには何か実現しそうな気がするんですが……。河端 工場の誘致といふと、昨年あたりからだんだん景気が上向ってきたというところで、工場の進出が盛んに行なわれました。ただ、傾向としては、熊本県の労働力に目をつけた繊維関係が中心だったわけですね。大体この繊維関係、紡績

関係、織物関係では人口一万人の町村では、一〇〇人位の工場が限度なんです。一町村一工場ということ、一昨年、昨年進んできたわけですが、もうこの辺で方向が転換されなければいけないと思つておられます。昨年の暮れから、今おっしゃった様に、九州ナショナルとか、三菱電機が決定するといふようなところで、少しづつ工場の色合いがかわつてきつたから、今後は、いわゆる電気関係であるとか、機械関係であるとか、そういうふうな従来よりも少し高度な工場誘致ということに、ことしはもつていきたいと思います。

村田 結構な話ですね。私はその点では非常に結構な話だと思ひますよ。——それで、さきほどの中小企業に対する基盤整備という話が出たわけなんです、確かに縦貫道路とか道路整備が進めば大きく発展するだろうという気がしますが……。それと農業の基盤整備がことしは大きく進められていくだろうと思ふんですが……。急増する平坦地の ほ場整備

白石 ええまあ、さきほど企画部長から基盤整備が大切だという話が出ましたが、振り返って見ますと熊本県の農業基盤整備は、昭和三十五年で一八億円でしたものが、四十一年は七二、三億円で伸びている、五年で大体四倍ぐらいの

急増する平坦地の ほ場整備